

学会ニュースNo.124 トピックス

- ・2018年度秋季例会のご案内
- ・2018年度立正地理学会評議員会報告
- ・第73回立正地理学会研究発表大会報告
- ・会費納入のお願い
- ・2018年度(第117回)臨地研究会のご案内
- ・2018年度(第73回)立正地理学会総会報告
- ・地理学教室だより

会告

○2018年度秋季例会のご案内

第41回秋季例会を下記の要領にて開催いたします。奮ってご参加下さい。

記

1. 日時:2018年12月1日(土) 13時30分~16時(予定)
2. 会場:立正大学品川キャンパス 11号館6階 1161教室
3. テーマ:江戸・東京のダイナミズム
4. プログラム:

①趣旨説明 鈴木厚志(立正大)

②講演1 佐野 充(日本大):
日本橋・京橋に見る江戸の復元

③講演2 吉本 勇(就実大):
渋谷駅周辺と大阪駅周辺(梅田)の変容

④トークショー
※入場無料



※山手通り沿いからお入りください

○2018年度(第117回)臨地研究会のご案内

1. 日時:2018年12月2日(日) 9:30~16:30
2. 集合場所:JR渋谷駅新南口(湘南新宿ライン・埼京線用)改札口前 9:30集合
3. テーマ:渋谷は変わる
4. 案内者:横畠康吉、吉本勇、大塚昌利、松井秀郎、小田巻滋
5. 参加費:500円(資料代、保険代)

6. コース:

渋谷駅新南口→川端稲荷(田中稲荷跡)→金王八幡宮(渋谷城址)→旧鎌倉街道→国連大学と周辺→表参道→キャットストリート(このあたりで昼食時間45分程度を予定)→旧宇田川周辺→文化村→円山町→神泉駅→道玄坂→百軒店→文化村通り(渋谷駅北口周辺部の商業機能)→ヒカリエ(ヒカリエ11階からの展望・渋谷駅周辺再開発事業)→解散(状況によりコースを変更することがあります)。

☆昼食:正午前後を目処に昼食時間を確保する予定です。各自持参されるかまたは適宜レストラン等で済ませいただきます(ただし、レストランは混み合うことが予想されます)。

7. 募集定員:20名

8. 懇親会:巡検解散後懇親会を行います。自由参加で会費5,000円を予定しています。

☆臨地研究会と懇親会の申込

1)巡検に参加を希望する会員は、参加者氏名、住所、電話番号、メールアドレス、生年月日、性別、所属を明記し、メールにて下記まで申し込んでください。個人情報には案内者からの連絡、保険加入のために使用させていただきます。締め切りは11月27日必着です。メールアドレスは下記の通りです。

吉本 勇宛メールアドレス isamu-y@shujitsu.ac.jp

2)懇親会に参加される方は、上記の巡検申し込みとともに、懇親会参加の旨を追記して下さい。

☆災害等により開催が困難な場合の対応

自然災害またはその他のやむを得ない理由によって臨地研究会の開催が困難な場合は、案内者からの連絡でお知らせいたします。

○2018年度立正地理学会評議員会報告

2018年6月1日(金)18時より、立正大学熊谷キャンパスアカデミックキューブ6階会議室において、出席者17名、委任状提出者6名、計23名にて開催された。議事では、2017年度事業報告が島津常任委員長よりなされた。次に、2017年度決算報告が大石庶務会計委員長よりなされ、いずれの事項も承認された。引き続き、2018年度事業計画案・予算案が提出され、いずれの事項も承認された。さらに、2018・19年度役員案ならびに2018年度委員案が提出され、いずれも承認された。

○2018年度(第73回)立正地理学会総会報告

2018年6月2日(土)11時より立正大学熊谷キャンパスアカデミックキューブA205教室において、出席者49名、委任状提出者352名、計429名にて開催された。正議長に稲村明彦会員、副議長に郷原裕生会員を選出し、議事に入った。議事では、2017年度事業報告、決算報告、会計監査報告があった。審議後、いずれの事項も承認された。引き続き、2018年度事業計画案・予算案、2018・19年度役員案、2018年度委員案が提出された。会員から質疑があり、審議後、いずれの事項も承認された。また、研究委員会の承認に関する報告があった。

○第73回立正地理学会研究発表大会報告

1. 第73回立正地理学会研究発表大会の概要

日時:2018年6月2日(土) 9:30より

会場:立正大学熊谷キャンパス アカデミックキューブ 2階

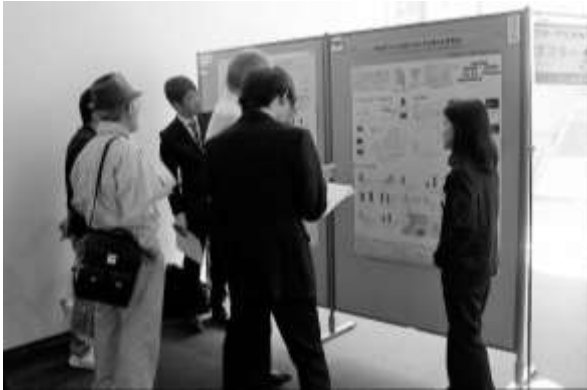


写真1 ポスター発表(山岸美穂会員撮影)



写真2 口頭発表(山岸美穂会員撮影)

2. 立正地理学会功労賞

長年にわたり立正地理学会の発展に貢献されてきました重見之雄会員が学会功労者として推薦され、立正地理学会功労賞が授与されました。



写真3 功労賞を受賞された重見之雄会員(山岸美穂会員撮影)

3. 第73回立正地理学会研究発表大会取材レポート

今回の大会で発表された研究の一部や、参加した学生の声を紹介します。

吉本 勇(就実大学):ジーンズを活用した倉敷市児島地区の観光について

岡山県倉敷市児島地区は、江戸時代には綿作り、明治以降は足袋・袴・帯地、戦後は木綿裁断や縫製技術による学生服・作業服作りで栄えた。その後、1964年から65年にかけて尾崎商事(1989年にビッグジョンに社名変更)が国産ジーンズ一号を製作した。現在は、ジーンズに関連した岡山土産の販売や、ジーンズ関連企業の集積と体験型観光、関連施設をめぐるジーンズバスの運行、春と秋のせんい祭り(多い時は1日7万人来場)の実施、京阪神地区をターゲットとした旅行商品の開発、ジーンズソムリエ資格認定制度の発足など、多彩なジーンズに関連する町づくりを行っている。2017年には倉敷の繊維産業発展の物語が日本遺産に認定され、児島地区はジーンズの聖地となった。

一方、上記のようなジーンズを活用した児島地区の観光には、ジーンズ以外の観光への興味のひき付けが不足していること、倉敷美観地区や近隣の産業・観光との連携が行われていないなどの課題が見られた。
(広報委員 土屋衛治郎)

齊藤朋美(日本都市整備株式会社):熊谷市下川上地区における住民の災害意識

近年、局地的大雨による水害が増加しており、各市区町村にはハザードマップの作成が義務づけられているが、集落単位などのミクロスケールに対応したハザードマップはほとんど整備されていない。また、避難所の位置や避難経路について住民の年齢構成や意見などを取り入れて作成している自治体は少ない。そこで本発表では、熊谷市下川上地区を対象に、現地調査による水害の被害状況を明らかにし、さらに水害に対する住民の意識調査や行政・防災組織の水害への取り組みについて、聞き取り調査を行なった。

調査の結果、行政が発行したハザードマップに記載された危険箇所とは異なる場所で水害被害がみられたこと、多くの住民が適切な避難場所を把握できていないことなどが明らかになった。住民の水害に対する意識の向上などが重要であることが指摘されていた。

(広報委員 小形旬平)

～学会に参加した学生の声～

地理学科2年 清水香帆さん

地理学の中でも特に自然地理学に興味があり、今回は戸田会員の「丹沢山地同角沢における河床縦断形の実測による地形調査」に興味を持ちました。本発表から自ら行動することの大切さを学びました。初めて発表大会に参加しましたが、思っていたよりも堅くない雰囲気の中で発表を聞くことができました。様々な発表を聞くことができ、とても勉強になりました。参加して良かったです。ぜひ、学生の皆さんも参加してください。

地理学科2年 黛 大樹さん

私が興味を持った発表は鈴木重雄会員の「養蚕の衰退とマツ枯れによる植生・土地利用の変化ー埼玉県滑川町山田地区の事例ー」です。滑川町山田地区における植生と土地利用変化を、マツ枯れや養蚕の衰退などの事象と関連させて考察されていました。GISの使い方も興味深く感じ、私も参考にしたいと思いました。研究発表の流れや論文の構成についての理解が深まり、今回参加することができて良かったです。

(広報委員 青木基寛・小形旬平・山岸美穂)

☆地理学教室だより☆

立正大学地理学科では今年度から2名の新しい先生をお迎えいたしました。今回の地理学教室だよりでは、新しく着任された宇津川喬子先生と原将也先生からのご挨拶を掲載いたします。

○宇津川喬子先生

2018年4月より、地理学科の助教に着任いたしました宇津川喬子です。首都大学東京の地理学教室で学生・院生時代を過ごし、2017年3月に博士(理学)を取得いたしました。専門は自然地理学と堆積学です。河川・海浜環境における砂やレキ(石)の生産—運搬過程と地形発達が主な研究テーマです。これまでに調査先で出逢った国内方々の美しいレキは、コレクションとして3号館の研究室に置いています。申し遅れました、自称「レキ女」です。

1期では、授業の一環で学生と共に荒川や秩父を訪ねました。“すぐそこに荒川”という熊谷キャンパスの環境は、教育者としても研究者としても恵まれていると思っています。立正大学で研鑽を積みながら、広い視野をもち、個性を大切にする学生の育成に携わっていきたいです。(写真:春の犀川にて。宇津川の手にあるホルンフェルスはこの後お持ち帰りされました。研究室で同居しています)



○原 将也先生

2018年4月に地理学科助教に着任いたしました原将也です。大学学部的时候には首都大学東京の地理学教室で学びました。その後大学院の博士課程では、京都大学に進学しました。

わたしの専門分野は環境地理学、アフリカ地域研究です。大学院に進学後、アフリカのザンビア共和国をフィールドとするようになりました。多民族農村において、人びとが営む焼畑農耕を中心とした日常生活に着目し、土地利用や農耕形態、食文化などの視点から、民族間の関係について解明しています。最近では、人びとの移住史や地域史、植民地時代以降の国家政策の変遷、生態環境の変化などから、多民族構成の農村が形成された要因を探っています。

ひとつの農村における人びとの生活というミクロスケールの事象と社会・経済・政治の変容というマクロスケールの事象をあわせ、総合的に人びとの暮らし・生き方について考えていくことを目指しています。



○会費納入のお願い

2018年度分の会費が未納の方には、今回の学会ニュースに「会費納入状況のお知らせ」と「払込取扱票」を同封しておりますので、ご納入下さい。また、過年度分会費が未納の方は、過年度分もあわせてご納入願います。会費および郵便振替口座の番号・加入者名は下記の通りです。

一般会員 4,000円 学生会員 2,500円
00130-8-13453 立正地理学会

なお、他の金融機関からお振込みされる際にご指定頂く口座は、以下の通りです。お振込みの際は、振込人氏名が会員ご本人の氏名となっておりますことをご確認頂きますよう、お願い申し上げます。

銀行名	ゆうちょ銀行
金融機関コード	9900
店番	019
店名(カナ)	〇一九店(ゼロイチキュウ店)
預金種目	当座
口座番号	0013453
カナ氏名(受取人名)	リッショウチリガクカイ

※学会ニュースや地域研究などの送付先の変更が生じましたら、お早めに立正地理学会までご連絡下さい。また、住所変更のご連絡がなく、新住所のみご記入され、氏名のご記入のない場合には、どなたのお振込みか不明となります。ご入金の際は、払込取扱票の払込人住所氏名の欄に必ず住所と氏名をご記入頂きますよう、お願い致します。

(庶務会計委員会)

編集後記

澄み渡る空気が心地よく感じられる今日この頃です。6月に行われました立正地理学会研究発表大会におきましては、インタビューに快く対応して頂き、御礼申し上げます。熊谷キャンパスでは、11月上旬に星霜祭が開催されました。開催期間中は秋晴れとなり、多くの参加者で盛り上がりました。12月には、秋季例会および臨地研究会が実施されます。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

(広報委員 小形旬平)

立正地理学会ニュース No.124

2018年11月16日発行 編集者 立正地理学会広報委員会
発行者 立正地理学会 〒360-0194 熊谷市万吉1700 立正大学地理学教室内
電話 048-539-1672 振替 00130-8-13453